

OPINION

老舗の台紙メーカー

台紙と聞いてイメージが付く方はいらっしゃるでしょうか？

台紙とは、物を置いたり、写真・図画などを貼りつけたりするための厚紙のことです。結婚式の写真などで立派

ナビゲーター

な台紙に張られた写真を見たことがあると思いますが、その写真を張り付けたりするための紙です。

今回ご紹介する木村台紙は、名古屋千種区にある大正3年に創業された歴史のある台紙メーカーです。木村台紙は、大型箔押し機・自動型抜き機等の台紙製造に必要な

中小企業のための 発明 PLUS 知財が分かる・使える

69

設備については自社で保有しており、一貫した台紙を製造することができる企業です。ただ、台紙は、写真がデジタル化していることに合わせて印刷する方が減ったことも要因して、台紙を使う機会も減ってきていると聞きます。

写真から聞こえる「産声」

オリジナル商品を作る

木村台紙の強さは、一貫して製造することができるため、自社製品を作ることに挑戦しやすい環境にあります。また、社長である木村徹さんはアイデアマンであることから様々なものを作り挑戦してきました。

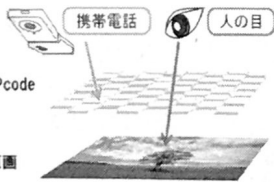
開放特許 差別化に活用した

例えば、自社機械を使ってオリジナルのアルバム台紙を作ったり表紙などに文字入れやデザインを入れたものも作ってきました。ただ、そこで足りないものが差別化だということを感じたそうです。差別化というこ

とに対して、木村社長は知財マッチングイベントをきっかけに開放特許という存在を知り、活用していくことに踏み切ったのです。

印刷コード埋め込み技術

同社が注目したのは、自らが台紙メーカーであることから写真技術を活用できる富士



「印刷コード埋め込み技術」



印刷コードを入れた「命名台紙」

「命名台紙」に活用しました。命名台紙に機械的なコードがあるとデザイン性が損なわれ

るところに、写真にコードを埋め込むことでデザイン性を損なうことのない製品を完成させたのです。そして、その写真から情報を読み込むと出産シーンや生まれたての動画に飛ぶなど、写真では作れなかった動画と連携したこれまでにない製品を作ることができたのです。

開放特許を活用した差別化製品の一例として注目されている同社の製品。同社は知財マッチングイベントで開放特許を知ったように、来る12月17日にウイנקあいちで愛知県が主催の知財マッチングイベントが行われます。同社も参加し実際の話を聞けるのでご機会あれば参加して下さい。

【弁理士 富澤 正】

(月曜日に掲載)